

令和5年度 学校関係者評価委員会報告書

1. 日 時 令和5年9月6日(水) 15:45～17:00

2. 場 所 中央情報経理専門学校 1号館2階121教室

3. 出席者

企業等委員：村山 良明 (社会福祉法人 あそか会)
企業等委員：鈴木 典浩 (前橋赤十字病院)
学校委員：今井 俊一 (中央情報経理専門学校 学校長)
学校委員：塚本 篤 (中央情報経理専門学校 副校長)
学校委員：柳田 祐大 (中央情報経理専門学校 教務部長)
学校委員：石黒 涼子 (中央情報経理専門学校 医療福祉秘書学科 学科長)
書記：関口 奈穂 (中央情報経理専門学校 教務事務)

4. 議 事

学校長挨拶、令和5年度自己点検・評価表について、質疑応答

5. 今年度の課題と委員の方からの質疑

「1 教育理念・目標」

課 題：「外部の講師等を学校側に招く機会が少なかった」

改 善：①オープンキャンパス等において卒業生スペシャルを実施し、業界で働く声を高校生に聞いてもらった。

②在校生については、キャリアデザインゼミ等を利用し、卒業生や税理士の先生などから話を聞く機会を設けた。

③職員については様々な研修に積極的に参加をした

「2 学校運営」

課 題：「学科別の会議は毎日行っているが全体会議が不足」

質 問：具体的にどのくらいのペースで行うのか。トップダウンで決めるべき

回 答：今後月1回のペースで学年会議を実施していく

課 題：「実務研修・指導力向上のための研修が不足している」

質 問：園では階層別研修を行っているが組織的に研修は行っているか

回 答：夏季と年度末にグループ全体研修は実施しているが、まだ不十分なところがあるので研修委員会で組織的に計画をしていきたい

課 題：「昇給・昇格制度は明確化されているか」

回 答：グループ本部に規定はあるものの詳細な要件は現場ではわからない

質 問：個人ごとに納得できるように出しておくべきでは

回 答：中期計画プロジェクトが進行しており今後明確化していく方向である

「3 教育活動」

課 題：「インターンシップに関しては分野によって不足している」

質 問：分野によってはオフィスに入ることも難しいのか

回 答：見学等は可能だがインターンシップとなると守秘義務の壁がある
編成委員を中心に協力してくれる企業を今後も探していきたい

課 題：「高校生に対する指導等、学校としてキャリア教育ができていないか」

改 善：検定直前期の高校生を対象とした簿記講座や普通高校で実施が難しい
コンピュータを使った会計処理に関する授業を継続的に行っている

質 問：現在も手書きで処理をしている会計事務所等はあるのか

回 答：個人事業主等で一部あるかもしれないがほとんどない

「4 学習成果・教育効果」

課 題：「資格取得の向上について」

改 善：担当教員により結果が変わるため、誰が担当してもクオリティを維持できる
ようにグループ内の専門知識を共有しながら改善をしていく

質 問：税理士試験の合格率はどのくらいで、在学中に全て取得できるのか

回 答：平均合格率は10%くらいであり、2年制だと頑張ると2科目合格が限界

課 題：「卒業生・在校生の社会的活躍・評価を把握しているか」

改 善：就職指導センターが企業訪問等で卒業生の動向が分かった時には担任と
情報共有している。

質 問：全体の何%くらい把握できているのか。

回 答：把握するタイミングが不定期であるため、割合や件数などの数値は答えられ
ない。ただし保育などは実習巡回などを行っているためほぼ把握できている

「5 学生支援」

課 題：「卒業後教育等の支援体制ができていない」

質 問：万全の状態を送り出しているはずなので卒業後の支援は難しいのでは

回 答：可能な範囲で取り組みはしていきたい。

「6 教育環境」

課 題：「インターンシップや実習の事前指導が不十分なところがある」

質 問：該当するのは毎年保育の学科か

回 答：全体の事前指導はもちろんだが個別指導の徹底を行う

質 問：実習が中止になった場合は再チャレンジできるのか

回 答：中止になった場合は学科によっては学内実習に切り替えてフォローしている

「7 学生の受け入れ募集」

課 題：「育成人材像、特徴、目指す資格・免許等を紹介しているか」

改 善：3 ポリシーについては広く周知するため、学校HPで公開をするようにした

「8 教育の内部保証システム」

課 題：「自己点検・学校関係者評価後のPDCAサイクルを回すのが遅い」

質 問：結果はともかくプロセスを踏んでいるのであればいいのでは

回 答：具体的な計画案を策定して実行していきたい

「9 財務」

回 答：貸借対照表と収支計算書はHPで公開している

「10 社会貢献・地域貢献」

課 題：「社会貢献や地域貢献に関する活動について不十分である」

改 善：地域が主催するボランティアの周知は定期的に行い希望者が参加しているが、まだ十分とは言えないため、SDGsに関する教育も入学年次で行い、自ら課題等を見つけられるように指導をしていく

「11 国際交流」

課 題：「留学生の受け入れ体制について」

質 問：入学するにあたり日本語検定のレベルはどの程度必要なのか

回 答：できればN3レベルが望ましいが、資格を持っていなくても不合格にはならない。ただし、日本人の学科に入学する場合はN2レベルが必要

6. 総評

上記11項目に対し外部の学校関係者評価委員に報告を行ったところ、中央情報経理専門学校の教育活動、学校運営は概ね高い水準で維持されていると評価していただいた。

その中でも改善すべき点として、インターンシップに関して工夫して何とか実践していくことや、職員に対しての評価基準の明確化は必要ではないかななどの意見をいただいた。

以上